

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

※令和4年度実施の取組は、別紙『意見等及び対応状況一覧』を作成

評価対象

(平成28年度～令和4年度)

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他	評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組み	対象のステークホルダー
1-1	人文学研究科・文学部・外国語学部	新入生保護者懇談会(外国語学部)	次回予定は未定	令和元年度/未定	外国語学部における教育研究の実情や学生の大学生活について、新入生の保護者に理解を深めていただき、良き応援者として学部を支えていただくことを目的とする。	新入生の保護者に対し案内を送付し、学内(学外)を会場場所として、希望者が参加する。会場では、学部からの様々な紹介やお願いを述べ、保護者からは質問等を受ける機会を設ける。これから大学に対する期待することや日頃疑問に思われることなどを意見交換した。			○		○			-	-	今後の授業運営や学生対応について、保護者が外からみて感じる声を、意見集約した。学部の活動に活かしていく。留学や進路情報をはじめ、予定されるキャンパス移転に際して、理解促進ができた。	その他:保護者
1-2	人文学研究科・文学部・外国語学部	箕面国際フェスティバル	R3年度のみ実施	令和3年度/-	R3年度に箕面キャンパスが移転したことに伴い、同キャンパスを中心に、留学生、日本人学生、研究者が相互交流を図るとともに、近隣住民をはじめとする一般の方々に様々な国や地域の文化に触れ合う機会を提供することを目的とする。	大阪大学と箕面船場地区周辺諸団体が、箕面市の協力を得ながら、箕面国際フェスティバル運営委員会を設置し、イベントの円滑な実施等につき、検討一般の方々に様々な国や地域の文化に触れ合う機会を提供することを目的とする。運営委員会では、イベント終了後も会合を設け、今後のキャンパス周辺の地域貢献等について、課題の共有等を行った。			○					-	-	地域のイベントとして、学生主体で毎年実施する夏まつり運営に活かす。夏まつりはR4年度にキャンパス移転後初開催し、成功を収めることができている。また周辺の諸団体との連携は、日を追うごとに深まっていき、キャンパス周辺の地域貢献に、大学が寄与している。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/マスコミ
2	法学研究科・法学部	学生アンケート	年2回	令和4年度/令和5年度	学生の意見等を把握し、教務事項の評価・改善を行うため	学生に対して、WEBを通じてアンケートを実施する。	○							学生アンケート結果(教務委員長がWEB上で確認するほか、全体結果は教務委員会、教授会でも回覧)	-	学生アンケートの結果については、教務委員長がWEB上で確認するほか、教務委員会でも全体の結果を確認して対応を検討し、適宜、改善・向上を実施している。教授会でも全体の結果を確認し、教務委員長から教務委員会の対応について説明している。対応状況は、教務委員会にて適宜、確認している。	在学生
3-1	理学研究科・理学部	能動性懇談会	年3～4回	令和4年度/令和5年度	学生と教員が一体となって議論を行い、学生と教員の両方へフィードバックすることで授業や学生生活の充実につなげるため	対面及びオンラインのハイブリッド形式で開催している。	○							-	-	学生から出た意見について、改善が必要な事項があれば、随時対応している。	在学生/教員
3-2	理学研究科・理学部	理学教育カリキュラム反省会(R2年度までは理学研究科・理学部学務評価委員会と合同で実施)	年1回	令和4年度/令和6年度	カリキュラムの内容や実施方法等に関する教員の意見を収集することにより、カリキュラムの改善に役立てるため	オンライン形式で開催している。	○							-	-	理学教育カリキュラム反省会にてカリキュラムの問題点や効果的な取り組みを構成員と共有している。	教員
3-3	理学研究科・理学部	理学懇話会	年1回	令和4年度/令和5年度	理学懇話会は、理学研究科・理学部が産業界等外部に対し、教育・研究等の情報を積極的に開示し、研究成果の企業等における利用または共同研究等、産学連携の窓口を探るとともに、教育・研究等に対する要望、提言及び第三者の立場からの評価を受け、理学研究科・理学部の教育研究水準の向上及び組織の活性化に資することを目的とする。	学外委員をお招きして年1回対面開催する。	○	○	○	○	○		理学懇話会のご意見 理学懇話会アンケート結果	研究科のHPにて公表している。 「情報公開」→「理学懇話会」 https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/outline/openinformation/	結果は理学研究科・理学部理学懇話会運営委員会で確認し、研究科HPで公表するとともに対応が必要な事項があれば、担当教員を指名して改善・向上を実施している。また、対応状況は次回の理学懇話会にて進捗を確認している。	卒業生/企業関係者	
4-1	医学系研究科・医学部	産学連携・クロスインベーションイニシアティブ全体会議の開催(年度内に概ね2～3回程度開催)	年2～3回	令和4年度/令和5年度	産学連携・クロスインベーションイニシアティブのディレクター、サブディレクター、オフィサー等の構成員と連携機関(協働機関、包括連携協定締結機関)が一堂に会し、産学連携活動・主催イベント等の取組、運営について意見交換を行う。	会議を開催して、直接、意見交換を行う。		○	○	○	○	○		-	-	連携機関からの要望・意見を取り纏め、定例ミーティングにて検討。改善できるべき事項は、活動に反映	教員/企業関係者/自治体
4-2	医学系研究科・医学部	連携機関への産学連携実態調査アンケートの実施及びヒアリングの実施	3～4年に1回	令和3年度/令和7年度	連携機関個別に産学連携活動への要望等を聴取し、より一層の連携強化を図る。	メールにて連携機関全機関にアンケート調査を依頼の上、アンケート用紙の提出により意見・要望等を聴取する。回答内容に基づき、個別ヒアリングを連携機関別に日程調整の上で面談を実施し、意見交換を行う。		○	○		○	○		-	-	連携機関からの要望・意見を取り纏め、定例ミーティングにて検討。改善できるべき事項は、活動に反映	企業関係者/自治体

＜ステークホルダーからの意見聴取実施一覧＞ ※令和4年度実施の取組は、別紙『意見等及び対応状況一覧』を作成

(平成28年度～令和4年度)

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他	評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組み	対象のステークホルダー
5	高等司法研究科	研究科アンケート	年2回	令和4年度/ 令和5年度	・学生の意見等を把握し、 教務事項全般の評価・改 善を行うため	・学生に対して、期末試験 時に紙のアンケートに記載 させる。	○							アンケート結果(集計結果 をFD・教育企画委員会で 確認するとともに、運営委 員会及び教授会でも共有)	-	アンケート結果については、 FD・教育企画委員会で確認 した上で、研究科として対応 すべき事項を検討して運営委 員会及び教授会に報告し、適 宜、改善・向上を実施してい る。また、対応状況はFD・教 育企画委員会及び運営委員 会で進捗を確認している。	在学生
	附属図書館	利用者アンケート	必要に応じ て実施	令和元年度/ 令和5年度	・附属図書館利用者のニ ーズを把握し、今後の図書館 運営や開館時間を検討す る材料とするため	・附属図書館利用者のうち 大阪大学構成員を対象と したアンケート。紙の調査 票及びWebアンケート フォームを使用しアンケ ートを実施。日本語及び英語 に対応	○	○		○	○			・2019年度附属図書館利 用者アンケート報告書 (2021年3月)	附属図書館Webサイトに て公表している。 https://www.library. osaka- u.ac.jp/pr/enquete/	・結果は部局構成員に周知す るとともに、館長・副館長会 議に報告し、図書館サービス 方針等に反映している。	在学生/教員/職員
6-2	附属図書館	箕面市立船場図書館利用 者アンケート	年1回	令和4年度/ 令和5年度	・大阪大学は箕面市立船 場図書館の指定管理者で あり、本調査は箕面市にお ける指定管理者評価の一 環として、毎年行うことと なっている。 ・箕面市が指定管理者によ る施設運営が適正に行わ れているかどうかを、利用 者目線に立った評価をす ることで、利用者にとっ て、より使いやすい施設に することを目的としてい る。 ・本アンケートは利用者の 傾向分析をするためのもの	・箕面市立船場図書館利 用者に対して、紙の調査票 によるアンケートを実施。 日本語に対応				○	○	○	市民の教 育・研究を 支援する こと。	(単体で公表するものでは ないため名称無し)	-	「箕面市立船場図書館の評価 に係る合議」の検討資料とす る。	在学生/教員/職員/卒業生/ 企業関係者/寄附者/投資家/ 高校等教育関係者/地域住民 /自治体
7	歯学部附属病院	がんセンター	週1回	令和4年度/ 令和5年度	歯学部附属病院口腔がん センター運営委員会規程 第8条に基づき、がん患者 の症状、状態及び治療方 針等について、意見交換、 情報共有、検討又は確認 を行う。	がん患者の症状、状態及 び治療方針等について、 意見交換、情報共有、検討 又は確認を行う。						○		-	-	治療に伴う症状の経過につ いて、確認を行い、適切な治 療方法の検討を行う。	教員
8	産業科学研究所	企業との懇談会	年に複数回	令和4年度/ 令和5年度	企業幹部、実務者からの 客観的な意見を得ること で、組織における研究活動 および産学連携・共創活動 に反映させるため	(一社)大阪大学産業科学 研究協会と連携し、当研究 所の研究活動内容を説明 したうえで、企業関係者か ら意見を求める。	○	○	○				産学共創・ 社会実装	-	-	懇談内容、意見等は戦略室お よび関連教員にて共有され、 有効・有用な事項・提案があ れば、研究活動および産学連 携活動の向上のための施策 を検討するようにしている。	卒業生/企業関係者
9-1	蛋白質研究所	・共同利用・共同研究拠点 に係る申請課題の選考等 について審議する。 ・指導・助言をもとに改善 方策を行う。	年8～10回	令和4年度/ 令和5年度	所長の諮問に応じ、研究 所の共同研究に関する次 の事項を審議する。 (1) 客員教員の募集及び 選考に関すること。 (2) 共同研究員、国際共 同研究及びセミナーの募 集及び選考に関すること。 (3) その他共同利用・共 同研究に関する重要事 項。	共同利用・共同研究拠点 に係る申請課題、検討事項 を提示したうえで審議す る。		○	○	○	○			蛋白質研究所専門委員会 議事要旨	-	公募の進め方や選考の進め 方などについての助言があ れば、教授会等に報告し、対 応が必要な事項があれば、所 内にて改善・向上を実施す る。	教員/その他:・学外の学識経 験者
9-2	蛋白質研究所	指導・助言をもとに改善方 策を行う。	年4～6回	令和4年度/ 令和5年度	・所長の諮問に応じ、研究 所及び蛋白質研究共同利 用・共同研究拠点の運営 に関する重要事項につ いて指導及び助言する。	・教員人事、共同利用・共 同研究拠点活動内容を提 示したうえで、評価、指導・ 助言を受ける。	○	○	○	○	○			蛋白質研究所運営協議会 議事要旨	-	結果は教授会報告し、対応が 必要な事項があれば、所内 にて改善・向上を実施する。ま た、対応状況は次回以降の本 協議会にて確認する。	教員/その他:・学外の学識経 験者

＜ステークホルダーからの意見聴取実施一覧＞

※令和4年度実施の取組は、別紙『意見等及び対応状況一覧』を作成

評価対象

(平成28年度～令和4年度)

別紙3

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他	評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組み	対象のステークホルダー
10	国際教育交流センター	部局訪問	必要に応じ て実施	令和4年度/ 令和5年度	全学組織として各部局の 留学生相談室等や専門教 育教員と連携して本学留 学生を生活面・心理面を 含め様々な形でサポート し、広範な日本語プログラ ムを提供するとともに、学 生交流の促進のための各 種受入・派遣プログラムの コーディネート、留学生や 教職員からの個別のケー スへの相談対応とサポート 、サポートオフィスにお ける留学生や外国人研究 者への宿舎の情報提供や ビザ取得の手続き支援な どの業務を行っており、グ ローバルなキャンパスの 実現及び学生交流の一層 の活性化に向けた課題の 把握や学内連携強化に向 けた意見・情報交換を目的 としている。	センター長及びセンター教 員1名が部局を訪問し、部 局長、部局から選出された 国際交流委員、留学生担 当教職員等の関係者と意 見・情報交換を実施する。	○			○				-	-	部局からの意見・質問等をセ ンターに持ち帰り、対応・改善 策を検討の上、部局に回答す るとともに、全ての訪問部局 への情報共有、各学部・研究 科から委員が選出されてい るセンター教授会での報告も 行っている。 一部、センターのみで対応で きない意見・質問等について は、本部関連部署等と連携・ 確認の上回答している。	在学生/教員/職員
11	生物工学国際交流セン ター	生物工学国際交流セン ター関連元教員などから の意見聴取(不定期)	年1回	令和4年度/ 令和5年度	外部からの客観的な意見・ 評価・要望・提案を得るこ とで、組織の施策に反映 させるため	対面、オンライン、訪問な どを利用した協議	○	○	○	○				-	-	生物工学国際交流センター関 係者交流会および意見交換 会にて意見等への対応検討	その他:元教員、海外客員教 授、研修講座修了生
12	科学機器リノベーション・ 工作支援センター	・教育支援の一環として 行っている工作学生実習 (学科の学生実験として年 間400名程度が受講)に おいて、受講生全員に対 するアンケート調査	必要に応じ て実施	令和4年度/ 令和5年度	・受講学生の感想や意見 聴取 ・受講学生の抱える問題点 などの把握 ・講習内容の妥当性や説 明の分かりやすさ等の評 価 ・実習依頼元の学科への 報告として ・受講学生の傾向把握	・5項目のRatingと2項 目自筆記入のアンケート調 査	○							科学機器リノベーション・ 工作支援センター ニュー スレター	新型コロナウイルスによる オンライン授業の後に一予 想外のガラス工作学生実 習の様子: https://www.reno.os aka- u.ac.jp/archive/CRM _NL_vol15.pdf 工作支援室 学生工作実習 について: https://www.reno.os aka- u.ac.jp/archive/CRM _NL_vol10.pdf	アンケート調査を基に、実習 方法や説明方法、安全確保な どについてその都度改善して いる。	在学生
13-1	日本語日本文化教育セン ター	学務委員会における各教 育プログラム(学部留学生 プログラム、日本語・日本 文化研修留学生プログラ ム、メイプル・プログラム、 大阪大学ファウンデージ ンプログラム)の学生を対 象とした教育活動アンケ ート	年1回	令和4年度/ 令和5年度	各教育プログラムの教育 の改善と内容の充実を図 るために、各プログラムの 終了時に、所属学生を対 象としたアンケートを実施 している。	各プログラムの終了時(学 部留学生プログラム・大阪 大学ファウンデーションプ ログラムは2月、日本語・ 日本文化研修留学生プロ グラム・メイプルプログラ ムは7月)に、書面ないし オンラインでアンケートを 実施する。アンケート結果 の概要については、学務 委員会、教授会で報告を 行う。	○			○	○			-	-	学務委員会、教授会での報告 の際に指摘された問題点を 踏まえ、各プログラムの担当 者が改善を行う。	在学生
13-2	日本語日本文化教育セン ター	総務委員会における、所 属学生を対象とした教育 環境アンケート	年2回	令和4年度/ 令和5年度	日本語日本文化教育セン ターの学生向け設備(教 室、図書室など)につい て、修了を控えた学生を対 象にアンケートを行うこと で、設備の利便性や問題 点を把握し、継続的な改善 を行っている。	各プログラムの終了時(学 部留学生プログラム・大阪 大学ファウンデーションプ ログラムは2月、日本語・ 日本文化研修留学生プロ グラム・メイプルプログラ ムは7月)に、書面ないし オンラインでアンケートを 実施する。アンケート結果 の概要については、総務 委員会、教授会で報告を 行う。	○			○	○			-	-	総務委員会、教授会での報告 の際に指摘された問題点を 踏まえ、各プログラムの担当 者が改善を行う。	在学生

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

※令和4年度実施の取組は、別紙『意見等及び対応状況一覧』を作成

評価対象

(平成28年度～令和4年度) 別紙3

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他	評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組み	対象のステークホルダー
14-1	エマージングサイエンスデザインR ³ センター	「大阪大学ナノ理工学人材育成コンソーシアム・理事会」からの意見収集	年4回	令和4年度/ 令和5年度	本理事会は、一般社団法人ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム・定款により設置・開催されているものである。ステークホルダー(企業)から意見・評価を定期的に収集して、特に、本センターが提供する人材育成プログラム:社会人教育プログラムの質の保証と向上に反映させる。	・本センターが新規に、あるいは本理事会(ステークホルダー(企業))からの要望を受けて、社会人教育プログラムの向上を目指す方策を提案して、調査およびステークホルダー(企業)との意見交換を経て具体化・実施を目指す。 ・構成は、理事11名(企業関係者8名、大阪大学関係者3名、うち代表理事1名は大阪大学関係者)、監事1名(大阪大学関係者)である(令和4年度)。 ・令和4年度以前の好事例「人材育成プログラム・ナノライフサイエンスコースの新設」を別紙5に記載。	○	○	○	○	○			-	-	・本理事会の要望を受けて、社会人教育プログラムの改善策を本センターより提案して、本理事会における議論を経て両者の合意のもとで実施案を策定する。 ・改善策の実施後における教育効果や受講生の反応について本理事会の開催時に情報共有することで、さらに良い社会人教育プログラムの提案と実施に繋げる。以上より、今後も、本センターが財務的に自立しながら、社会人教育プログラムの提供を継続させるための方策の策定に主体的に寄与する。	企業関係者
14-2	エマージングサイエンスデザインR ³ センター	大阪大学ナノ理工学人材育成コンソーシアム・企画運営委員会からの意見収集	年4回	令和4年度/ 令和5年度	本委員会は、一般社団法人ナノ理工学人材育成産学コンソーシアムにおいて、1)教育カリキュラム、2)研究開発、3)調査・広報について企画・運営を担当するものである。本委員会と定期的に実務的な意見交換を行い、本センターが提供する人材育成プログラム、特に社会人教育プログラムの質の保証と向上に反映させる。	・本センターが新規に、あるいは本委員会を通してステークホルダー(企業)からの要望を受けて企画する人材育成の提案について、ステークホルダー(企業)との実務的な意見交換を経て具体化・実施を目指す。 ・委員13名の構成は、企業関係者6名、大阪大学関係者7名である(令和4年度)。	○	○	○	○				-	-	・本委員会における議論を踏まえて実施した社会人教育プログラムの改善の結果は、本委員会と情報共有することで、さらなる改善に寄与する。 ・さらに、本委員会での実務的な議論は適宜、質の保証を所掌する「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム実施委員会」および「エマージングサイエンスデザインR ³ センター・教職員会議」にフィードバックさせることで、同所掌会議体の構成員が、社会人教育の現在の課題を理解して、解決に向けて対応するように努める。	企業関係者
15	知的基盤総合センター	知的財産法プログラムのカリキュラム改定に向けたヒアリング	H31年度のみ実施	令和元年度/ -	第4期中期目標期間に向けた、知的財産法プログラムのカリキュラム改定のためのニーズ調査。	日本知的財産協会関西事務所、日本弁理士会関西会及び在阪弁理士にヒアリングを行い、知的財産法分野の教育ニーズを聴取する。	○							-	-	ヒアリング結果を知的基盤総合センター内で共有し、2021年度からの新カリキュラムの策定に当たっての参考にした。	卒業生/企業関係者/その他: 在阪弁理士
16	核物理研究センター	核物理研究センター運営委員会	年3回	令和4年度/ 令和5年度	本センターは国際共同利用・共同研究拠点に認定されており、国内外の多くの研究者と共同研究を実施している。外部からの意見を取り入れ組織の施策に反映させるため、本センターの運営全般について審議する運営委員会は、委員総数の1/2以上を学外委員としており、原子核物理コミュニティ及び関連する分野の方に参加いただき、ご意見をいただいている。	毎年3回委員会を開催し、本センターの運営全般に関する審議及びご意見をいただいている。	○	○	○	○	○			-	-	運営委員会の議事内容を教授会で報告し、対応が必要な事項があれば改善・向上を実施している。	その他:原子核物理コミュニティ及び関連分野の研究者
17-1	サイバーメディアセンター	サイバーメディアセンターホームページ	年1回	令和4年度/ 令和5年度	全国共同利用施設、および大学内外の情報基盤を支える施設としての広報	Web公開	○	○	○	○	○			-	-	意見等への対応検討	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ/その他:すべて
17-2	サイバーメディアセンター	高性能計算機システム委員会	年2回	令和4年度/ 令和5年度	以下について審議し、その企画等に当たる。 (1) 高性能計算機システムの構築に関すること (2) 高性能計算機システムの負担金に関すること (3) 高性能計算機システムの利用促進に関すること (4) その他高性能計算機システムに関すること	オンライン参集、またはメール会議		○			○			-	-	委員会でごいただいたご意見等の内容共有、対応の検討	教員

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧> ※令和4年度実施の取組は、別紙『意見等及び対応状況一覧』を作成

(平成28年度～令和4年度) 別紙3

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	評価対象							評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組み	対象のステークホルダー
							教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他				
17-3	サイバーメディアセンター	大規模計算機システム利用者アンケート	年1回	令和4年度/ 令和5年度	大規模計算機システムの利用者に対して利用者アンケートを実施している。その他にも必要に応じて負担金制度や新システム導入に関するアンケートを行っている。	Webサイトによるアンケート		○			○			-	-	頂いた意見を参考にして対応を検討する。	在学生/教員/職員//企業関係者/海外教育研究機関
18	免疫学フロンティア研究センター	包括連携先企業との連携協議会	年2回	令和4年度/ 令和5年度	包括連携契約に係る連携推進状況及び運営管理に関する事項を審議し、研究力向上を目指す。	・双方が当該期間に係る資料を作成し、それを基に質疑応答、意見交換を行う。 ・協議会終了後は議事録を作成し、共有する。	○	○	○	○	○			-	-	・質疑応答、意見交換により、対応が必要な事項があれば、センター内で検討し、改善・向上を行う。	教員/企業関係者
19-1	国際共創大学院学位プログラム推進機構	大学院副専攻プログラム/大学院等高度副プログラム 学生懇談会(インタビュー)	年1回	令和4年度/ 令和5年度	プログラム履修者によるプログラムに対する感想・要望等を把握し、プログラム内容や制度などの改善の参考とするため	プログラム履修者を数名募り、座談会形式でのインタビューを実施する。	○							大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムパンフレット(一部)	パンフレットの配布及び機構のホームページへの掲載 https://itgp.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/g_r5-pumph.pdf	聴取内容は、パンフレット内の「履修者の声」として掲載し、プログラムに興味のある学生に発信するとともに、横断型教育統括部門会議で確認し、改善事項があれば部門で検討し、次年度以降の制度に反映させている。	在学生
19-2	国際共創大学院学位プログラム推進機構	大学院副専攻プログラム/大学院等高度副プログラム 受講者アンケート	年1回	令和4年度/ 令和5年度	プログラム履修者の状況・要望等を把握し、プログラム内容や制度などの改善の参考とするため	プログラム修了予定者に対して、WEB(KOAN)を通してアンケートを実施する。	○							大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム受講者アンケート結果	-	結果はプログラム担当者間の情報交換会にて共有するとともに、横断型教育統括部門会議で確認し、改善事項があれば部門で検討し、次年度以降の制度に反映させている。	在学生
19-3	国際共創大学院学位プログラム推進機構	大学院副専攻プログラム/大学院等高度副プログラム 情報交換会	年1回	令和4年度/ 令和5年度	プログラムを提供する教職員の状況・要望等を把握し、プログラム全体の施策や制度の改善の参考とするため。また、プログラム相互の情報交換により、各プログラムの内容の改善や協力体制の構築を促すため	プログラムを提供する教職員が直接情報交換できる場を設ける。その際、事前アンケートを実施し、結果の共有や話題提供を行う。	○							大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム担当者アンケート結果	-	情報交換会開催前にアンケートを実施し、結果は、情報交換会で話題提供として共有している。また、横断型教育統括部門会議で確認し、改善事項があれば部門で検討し、必要に応じて各部署に検討結果を周知のうえ、次年度以降の制度に反映させている。	教員/職員
20-1	マルチリンガル教育センター	クラス代表懇談会	年2回	令和4年度/ 令和5年度	学生の状況・要望等を把握し、組織における施策に反映させるため	4月に選出された1年生クラス代表との懇談	○							報告書	全学教育推進機構ホームページで概要を公開している。 https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/class-mtg/	内容に応じて関係者・構成員に周知し、対応が必要な事項は改善・向上を実施している。	在学生
20-2	マルチリンガル教育センター	マルチリンガル教育連絡協議会	年1回	令和4年度/ 令和5年度	マルチリンガル教育の実施状況や計画について情報提供するとともに、履修側部局の意見や要望を聴取し意見交換等を行うことにより、マルチリンガル教育の質保証の体制を充実させるため	履修側部局にアンケートを実施し、それをもとに連絡協議会で議論する	○							-	-	聴取した履修側部局の意見や要望への対応を、運営検討委員会で検討し、必要に応じてフィードバックする。	教員
21-1	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	・男女協働参画に関するアンケート調査 ・自然科学系女子学生ネットワーク「asiam」との意見交換・アンケート調査 ・女性研究者との意見交換 ・部長との意見交換 (前身の男女協働推進センターにおける取組を含む)	随時	令和4年度/ 令和6年度	女性研究者増加のために実効性のある必要な施策を検討するため	対面による聞き取り、アンケート調査	○	○	○		○		D&I	・アンケート結果 ・「ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けての提言～女性がいきいきと活躍するキャンパスへ～」 ・「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」	D&IセンターHP(宣言のみ公開) https://www.di.osaka-u.ac.jp/diversity-and-inclusion-declaration/	集めた貴重なご意見を提言や宣言に集約し、全学に周知した。また、令和4年度からの新事業へと発展させ、事業展開中であり、今後施策の自己点検・改善を実施していく。	在学生/教員/職員
21-2	ダイバーシティ&インクルージョンセンター	センター兼任教員を通じた部局のニーズ把握 (前身の男女協働推進センターにおける取組を含む)	随時	令和4年度/ 令和5年度	兼任教員の本所属部局におけるD&Iに関するニーズ等をセンターに伝達し、施策に反映させるとともに、所属部局において本学のD&I推進の意識及び取組を浸透させるため	センター会議等の場で意見収集	○	○	○	○	○		D&I	-	-	方針策定を担うD&Iオフィスと強固に連携しながら、D&Iセンターで施策を機動的に実施 (下記体制図参照) https://www.di.osaka-u.ac.jp/about/	在学生/教員/職員
22	適塾記念センター	適塾見学会、適塾講座等の参加者へのアンケート	年1回	令和4年度/ 令和5年度	・今後の適塾見学会、適塾講座等の企画・立案に反映させるため	紙媒体及びWeb上			○					-	-	対応が必要な事項があれば、担当教員を指名して改善・向上を実施している。	教員/職員/地域住民/その他:適塾記念会会員、緒方家関係者 適塾見学会、適塾講座等の参加者

＜ステークホルダーからの意見聴取実施一覧＞ ※令和4年度実施の取組は、別紙『意見等及び対応状況一覧』を作成

(平成28年度～令和4年度)

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他	評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー
23	21世紀懐徳堂	公開講座参加者へのアンケート	年9回	令和4年度/ 令和5年度	・今後の公開講座の企画・立案に反映させるため	紙媒体及びWeb上			○					公開講座アンケート調査結果報告書	-	結果は構成員に周知するとともに、21世紀懐徳堂公開講座企画委員会に共有し、対応策を21世紀懐徳堂運営委員会で審議している。	その他:公開講座参加者
24	情報推進本部	OUICTニュースの発行及び各施策の意見照会	年2回	令和4年度/ 令和5年度	各施策に対する意見を収集し、今後の施策に反映させるため	情報推進本部及び情報セキュリティ本部の活動状況を学内構成員に周知し、その施策に対する理解を深めるとともに、情報セキュリティインシデント発生を防止する。併せて、掲載内容を含む活動内容や施策に対する意見をWebフォームを通じて募集し、取組内容の評価や改善に活用する。					○			OUICTニュース	-	設置したWebフォームへの投稿内容のうち対応が必要な事項があれば情報推進本部協議会で確認し改善・向上を実施している。	在学生/教員/職員
25	情報セキュリティ本部	OUICTニュースの発行及び各施策の意見照会	年2回	令和4年度/ 令和5年度	各施策に対する意見を収集し、今後の施策に反映させるため	情報推進本部及び情報セキュリティ本部の活動状況を学内構成員に周知し、その施策に対する理解を深めるとともに、情報セキュリティインシデント発生を防止する。併せて、掲載内容を含む活動内容や施策に対する意見をWebフォームを通じて募集し、取組内容の評価や改善に活用する。					○			OUICTニュース	-	設置したWebフォームへの投稿内容のうち対応が必要な事項があれば情報セキュリティ本部協議会で確認し改善・向上を実施している。	在学生/教員/職員
26-1	サステナブルキャンパスオフィス	キャンパスイメージアンケートを実施し、施設の満足度調査を実施	2年に1回	令和4年度/ 令和6年度	学生、教職員の施設に対する満足度を把握し、施設整備の施策に反映させるため	WEBを通してアンケートを実施							キャンパス・施設整備全般	キャンパスイメージアンケート	大学HPにて公表している。 https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/campus/fmc	キャンパスイメージアンケート結果は、サステナブルキャンパスオフィス会議・(旧)施設マネジメント委員会で確認し、今後の施設整備計画立案の基礎資料としている。	在学生/教員/職員/卒業生/地域住民
26-2	サステナブルキャンパスオフィス	キャンパスマスタープランの改訂に向けた意見交換会	必要に応じて実施	-/ 令和5年度	キャンパスマスタープランの改訂に向け、改訂方針の共有や反映すべき内容について意見徴収、意見交換を行うため	吹田・箕面地区、豊中地区で各1回オンライン会議を開催							キャンパス・施設整備全般	大阪大学キャンパスマスタープラン	大学HPにて公表している。 https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/campus.masterplan/masterplan	意見交換した内容はサステナブルキャンパスオフィスで検証し、キャンパスマスタープラン改訂にかかる基礎資料としている。	教員/職員
26-3	サステナブルキャンパスオフィス	省エネルギー推進会議を開催し、全学の部局を対象に意見交換を実施	年1回	令和4年度/ 令和5年度	特定事業者として省エネ法の適用を受けていることから、構成員に対して省エネの取り組み方針を周知するとともに、意見交換を行うことで省エネ推進を図る。	省エネルギー推進会議を実施					○			省エネ推進会議資料	-	省エネルギー推進会議で受けたご意見は、サステナブルキャンパスオフィス環境・エネルギー部門会議で検証し、省エネ方策や会議資料等を改善するための基礎資料としている。	在学生/教員/職員
26-4	サステナブルキャンパスオフィス	大学ホームページにキャンパス環境に対するご意見の投稿フォームを開設	通年	令和4年度/ 令和5年度	・学生、教職員の施設に対するニーズを把握し、施設整備の施策に反映させるため	大学ホームページにキャンパス環境に対するご意見の投稿フォームを開設							キャンパス・施設整備全般	キャンパス環境ご意見箱	大学HPにて公表している。 https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/campus/environment	キャンパス環境ご意見箱によるご意見は、(旧)施設マネジメント委員会で確認すると共に、意見内容の所管事務部に連絡し検討・対応を依頼している。	在学生/教員/職員/卒業生/地域住民
27-1	本部事務機構 企画部	Webメディア等を通じての意見収集	随時	令和4年度/ 令和5年度	大阪大学が社会から共感と信頼を得るため、広報活動により社会との双方向のコミュニケーションを行います。 Webメディア等は、社会のさまざまなステークホルダーの方々に開かれており、ご意見やご質問を頂戴しやすい仕組みです。	公式Web、ResOU、マイハンドアイアプリ、公式Facebookで問い合わせフォームを開設するとともに、総合案内センターとして広報課の直通電話番号を公開し常時間問い合わせを受け付けています。 Webに寄せられた意見は、メールで広報課に届く仕組みになっており、適切な担当部署に繋げることで、ユーザーからの意見を大学に取り入れる窓口として機能している。	○	○	○	○	○			-	-	届けられた意見や問い合わせを、適切な部署につないでいる。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ/その他:在学生保護者

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他	評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組み	対象のステークホルダー
27-2	本部事務機構 企画部	大阪大学NewsLetter読者アンケートの実施	年2回	令和4年度/ 令和5年度	広報誌は、社会に向けて、大阪大学を支持していただくために発行しており、様々な活動を分かりやすく紹介しています。読者アンケートは、読者に大阪大学の魅力をお届けできるようよりよい紙面づくりのために、毎号実施しています。	読者アンケートは公式Web上を経由して、Office365「Forms」にて実施している。広報誌から二次元コードにてリンクできるようにしているほか、公式Twitterや公式Webニュースなどでもアンケート実施の案内を送付している。			○					大阪大学NewsLetterアンケート結果	-	アンケート結果を編集会議で確認し、改善すべき点があれば、次号以降の紙面づくりに活用している。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ
27-3	本部事務機構 企画部	在阪報道関係者と大阪大学との懇談会の開催を通じたメディア関係者との意見交換、意見収集	年1、2回	令和4年度/ 令和5年度	本学にとって重要なステークホルダーであるメディア関係者と良好な関係を構築するため、定期的に本学の教育研究、共創活動について説明するとともに、参加者と本学関係者とのフリーディスカッションの場を設けている。	年に1、2回、メディアの皆さんが参加しやすい大阪市内の会場で開催している。本懇談会の開催を通じて、記者さんが関心をお持ちの社会的課題や研究分野などを把握することができ、本学の広報・ブランド戦略活動に活用している。	○	○	○	○	○			-	-	メディア関係者が関心をお持ちの社会的課題や研究分野などの把握を通じて、今後の広報・ブランド戦略活動に活用している。	マスコミ
28-1	本部事務機構 教育・学生支援部	学生との懇談会	3年に1回	令和2年度/ 令和5年度	「令和2年度 学生との懇談会の開催について」から抜粋 各学部・研究科で定めた教育目標及び3つのポリシーに基づいて実施される教育プログラム(カリキュラム)について、学位授与の方針で示した学習目標が達成できたか、授業やカリキュラム全体に対する評価はどのようなものか、また、新型コロナウイルス感染症流行による大学生生活・学習環境への影響等、教育アセスメントの一環として教育運営に関する様々な意見を直接学生から聴取することによって、本学における教育の内部質保証システムの構築に資する。	教員(教育担当理事・副学長、教育オフィス員、教育課程委員会委員、内部質保証専門委員会委員等)と各学部・研究科の最終学年の学生との懇談会を開催し、あらかじめ示した項目に沿って(自由に)意見交換を行う。	○							「学生との懇談会」実施結果	-	結果は教育課程委員会及び教育オフィス会議で確認し、対応が必要な事項があれば、教育担当理事の判断により、所掌する組織に検討を依頼する仕組みとしている。	在学生
28-2	本部事務機構 教育・学生支援部	学生生活調査	4年に1回	令和3年度/ 令和7年度	本学学生の生活状況や要望を把握し、その結果を福利厚生・課外活動等の充実や改善及びこれらの施設の設置等に役立てるための基礎資料とするもの	インターネット上でアンケート調査を実施	○	○		○			生活状況、健康状態、就職関係、課外活動等	大阪大学学生の意識と生活 第25回学生生活調査報告書	https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/survey	学生生活委員会にて、前回・前々回調査との比較を行い、学生生活全般について、どのように変化があるか、改善が行えるか分析を行い、学生を支援する基礎資料としている。	在学生
28-3	本部事務機構 教育・学生支援部	全学学生アンケート(入学時アンケート、在学生アンケート、卒業・修了時アンケート)	年5回 ・入学時(4月・10月) ・在学生(4月) ・卒業・修了時(9月・3月)	令和4年度/ 令和5年度	「大阪大学全学学生アンケートの実施に関する申合せ」から抜粋 本学学生の入学時、在学中、卒業・修了時の活動状況及び意向等を継続的に把握し、分析することによって、その結果を本学の教育の内部質保証並びに教育・研究環境の向上のため活用する。	学生に対して、WEBを通してアンケートを実施	○							全学学生アンケート結果	-	結果は教育課程委員会及び教育オフィス会議で確認し、学部及び研究科、学位プログラム、学位プログラムに準じた教育プログラムにおいて実施する教育アセスメントに活用できるよう、SLiCSセンサーが管理するwebサイト上から閲覧可能な仕組みとしている。	在学生
29	本部事務機構 共創推進部	「大阪大学感謝の集い」参加者アンケート	年1回	令和4年度/ 令和5年度	感謝の集いで大阪大学及び未来基金への意見等を収集し業務の改善につなげるため	感謝の集い招待者(一定期間内に一定金額以上の寄附者)に対して、紙媒体またはWEBを通じてアンケートを実施			○					-	-	アンケート結果は担当部署及び共創機構渉外部門で共有し、問題点の洗い出しやニーズの把握を行い、次年度以降の改善に生かしている。	寄附者
30-1	本部事務機構 財務部	学寮アンケートの実施	年1回	令和4年度/ 令和5年度	学寮の入居者からの意見を得ることで、学寮の環境改善等に資するため。また、今後の学寮再編計画の検討に資するため	学寮の入居者に対して、WEBを通してアンケートを実施					○			-	-	回答内容を元に、対象事項を精査し、改善を行うとともに、今後の学寮再編により新設する寮の仕様を決定するための参考資料として活用している。	在学生
30-2	本部事務機構 財務部	駐車場問題に関するアンケート調査の実施	年1回	令和4年度/ 令和5年度	キャンパス内の交通環境問題と、教職員の通勤手段という身近な問題に対する施策の企画・立案の重要な基礎資料とするため	教職員に対して、WEBを通してアンケートを実施					○			-	-	結果を参考とした施策の企画・立案を行うための基礎資料として活用する。	教員/職員

No.	部署名	取組名	実施周期	直近実施/ 次回予定	実施目的	実施方法	教育	研究	社会 との 共創	グロ ーパ ル化	業務 運営	病院	その他	評価書等名称	評価書の学外公表	改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー
30-3	本部事務機構 財務部	統合報告書に関するアンケート調査の実施	年1回	令和4年度/ 令和5年度	統合報告書の読者からの意見、感想、要望の得ること、今後の統合報告書の改善、充実等に資するため	統合報告書の読者に対して、WEBを通してアンケートを実施							統合報告書の充実	-	-	アンケートに対する回答を執行部、関係部署、統合報告書作成チームで共有し、統合報告書の充実した話面作りに活用する。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/マスコミ/その他:高校生・受験生、在学生の保護者